

取組（例）

前ページの各項目について、具体的な取組例は次のとおりです。次の取組か、これと同程度の効果がある取組を行った場合、その項目を実行したものと判断し、印を付します。

家畜排せつ物法	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 家畜排せつ物法に基づく管理基準(家畜排せつ物法施行規則第1条第1項)の適用対象規模 (家畜排せつ物法施行規則第1条第2項)に該当する場合、管理基準に適合した家畜排せつ物の管理を行う。 (参考)管理基準(法施行規則第1条第1項) <ul style="list-style-type: none"> ア 構造設備に関する基準 <ul style="list-style-type: none"> a 固形状の家畜排せつ物の管理施設については、床をコンクリート等汚水が浸透しない材料(不浸透性材料)で築造し、適当な覆い及び側壁を設ける。 b 液状の家畜排せつ物の管理施設については、不浸透性材料で築造した貯留槽とする。 イ 管理方法に関する基準 <ul style="list-style-type: none"> a 家畜排せつ物は管理施設において管理する。 b 管理施設の定期的な点検を行う。 c 管理施設の床、覆い、側壁又は槽に破損があるときは、遅滞なく修繕を行う。 d 送風装置等を設置している場合は、当該装置の維持管理を適切に行う。 e 家畜排せつ物の年間の発生量、処理の方法及び処理の方法別の数量について記録する。
悪臭・害虫の発生	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 家畜排せつ物の処理・保管用施設を有する場合、処理容量に応じた施設の稼働や施設内外の清掃等に努める。 ◎ 畜舎等におけるふん尿の早期搬出や清掃等に努める。
排せつ物の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 次の取組のうち一つ以上の実行に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ① 家畜排せつ物のたい肥化、液肥化、スラリー処理又は保管等を行い、土づくりや施肥を行うなど農業者自らが作物生産や園芸等への利用を行う。 ② 家畜排せつ物のたい肥化、液肥化、スラリー処理又は保管等を行い、作物生産や園芸等への利用が見込まれる者(他の農業者を含む。)への譲渡(無償・有償を問わない。)等を行う。 ③ 上記①や②が困難であったり、地域の実情や条件からみてより適切な処理方法や利用方法があるといった場合に、炭化、焼却、汚水浄化、委託処分等による適切な処理等を行う。 ④ 地域的条件等に応じ可能な場合については、メタン発酵等によるエネルギー利用を行う。
環境法令	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 使用済みプラスチック等の廃棄物が発生する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従った処分に努めるなど適切に対応する。 ◎ 臭気や排水等が経営体外へ放出又は排出される場合は、水質汚濁防止法、悪臭防止法等に従った措置に努めるなど適切に対応する。
エネルギーの節減	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 電力や燃料等を消費する施設・機械・器具等を使用する場合は、次の取組のうち該当するものの実行に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ① 機械・器具の適切な点検整備と施設の破損箇所の補修等を行う。 ② 必要以上の加温、保温又は乾燥を行わない等適切な温度管理を行う。 ③ 機械の運行日程の調整や作業工程の管理による効率的な機械の運転を行う。 ④ 電力消費に際しての不要な照明の消灯を行う。
知見・情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 次の取組のうち一つ以上の実行に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ①都道府県(普及指導センター等)、市町村、JA等が発信する情報誌・パンフレット・チラシ、専門紙又は書籍などを通じて、家畜の飼養・生産に伴う環境負荷の発生やその低減方策に関する知識や情報を入手する。 ②家畜の飼養・生産に伴う環境負荷の発生やその低減方策に関する知識や技術に関する講演、研修会などに参加する。